Canon

キヤノン株式会社

2019 年 12 月期　決算説明会 【主な Q&A 要約】

Q1.　2019 年の構造改革の実績について教えてほしい。

A1.　昨年は計画通り 300 億円をかけて、海外の販売会社を中心に構造改革を実施した。主な対象はオフィス事業であり、カメラ事業も一部含まれている。

Q2.　2019 年期末のカメラの在庫回転日数は、9 月末からは改善しているものの、前年と比べるとまだ高いが、適正水準と捉えているか。

A2.　想定を上回る景気減速により年末商戦の売上が期待を下回ったことで、期末在庫は高い水準にあるが、製販調整により適正化を図っていく。

Q3.　レーザープリンターの消耗品の対前年売上伸び率が、2019 年の△15%から、2020 年は△1%と改善している理由を教えてほしい。

A3.　レーザープリンターのビジネスは、消耗品を安定的に販売していくために、いかに消耗品の売上に結び付く本体を販売できるかが重要である。昨年は従来以上の低温定着を実現した製品を投入し、省電力が評価されて市場への浸透が進んでいることから、今年の消耗品売上は 2019 年と同等の水準となる見込み。

Q4.　メディカルビジネスユニットの 2019 年実績が前回計画未達になった理由と 2020 年増収増益に向けた施策を教えてほしい。

A4.　日本の消費増税の反動が想定以上だった点が主な理由である。今年は、2019 年後半に投入した CT や MRI の高付加価値モデルの販売を伸ばすことで、プロダクトミックスを改善させるとともに、サービス収入の増加にもつなげていく。

Canon

キヤノン株式会社

2019 年 12 月期　決算説明会 【主な Q&A 要約】

Q5.　キヤノンの事務機事業に関する戦略を教えてほしい。

A5.　複合機では、単なるコピーやプリントだけでなく、使い勝手やダウンタイムの少なさなど、オフィスの業務効率に貢献する機種が選好されるようになっており、当社も利便性を高めた製品が台数を伸ばしている。またレーザープリンターでも、従来以上の低温定着を可能とし、環境性能を高めた製品を投入している。事務機市場は、今後伸びていくことは期待できないが、顧客ニーズに合わせて、性能を高めた製品を提供することで、いかに数量を保っていくかに主眼を置いている。

Q6.　半導体露光装置および FPD 露光装置の 2020 年の台数増の背景について教えてほしい。

A6.　半導体露光装置は、メモリ市況の回復を背景に 2020 年は台数を大きく伸ばす見込みである。
FPD 露光装置は、スマートフォンへの投資が徐々に再開されることで中小型が伸び、また大型もテレビ向けの高精細パネルへの高い需要が継続することから、2020 年は台数を伸ばす計画である。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。